

科目名	コンサートプロダクト4							年度	2025
英語科目名	Concert Product 4							学期	後期
学科・学年	コンサート・イベント科 コンサートPAコース 2年次	必/選	選	時間数	270	単位数	9	種別※	実習
担当教員	床鍋 隆	教員の実務経験		無	実務経験の職種				

**【科目の目的】**

実習を通してコンサートPAスタッフとしての業務の内容を理解する。また、デジタルコンソールをはじめライブ実施に向け機材、セッティングを学び計画通りセッティングチェックができるようにする。コンサートPAスタッフとしてのスキルとコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。

**【科目の概要】**

- A. デジタルコンソールのしくみを理解する
- B. バンドに対応した多チャンネルコンソールのしくみが理解できるようになる。
- C. ネットワークを利用したデジタル音声伝達の仕組みを理解できるようになる。
- D. ラインアレイスピーカーのしくみを理解し、安全に考慮した仕込みができるようになる。
- E. スピーカーチューニングや音場補正等環境に応じたシステム構築ができるようになる。

**【到達目標】**

デジタルコンソールのしくみを理解し、バンドに対応した多チャンネルコンソールのしくみが理解できるようになる。ネットワークを利用したデジタル音声伝達の仕組みを理解できるようになる。ラインアレイスピーカーのしくみを理解し、安全に考慮した仕込みができるようになる。音場補正等環境に応じたシステム構築ができるようになる。外部ホールを使用した実践的な環境でコンサートPAを行うことができる。

**【授業の注意点】**

授業時数の4分の3以上出席しないものは評価しません。実習やゼミで一度行っただけでは、自分に身に付くはずはないので必ずメモを取る事。そのメモは授業などで使うノートではなく、携帯に便利な小型のメモ帳を推奨する。メモの取り方の注意は、後日自分で確認した時に確実に理解出来るように心掛ける。あとは分からない事、自信がない所は積極的に質問してその場で解消する事。

評価基準＝ループリック

ループリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	デジタルコンソールの仕組みを理解しセッティングが確実にできる		デジタルコンソールの仕組みを理解している		デジタルコンソールの仕組みを理解が乏しい
到達目標 B	バンドに対応した多チャンネルコンソールの仕組みを理解しセッティングが確実にできる		バンドに対応した多チャンネルコンソールの仕組みを理解している		バンドに対応した多チャンネルコンソールの仕組みを理解が乏しい
到達目標 C	ネットワークを利用したデジタル音声伝達の仕組みを理解しシステム構築ができる		ネットワークを利用したデジタル音声伝達の仕組みを理解している		ネットワークを利用したデジタル音声伝達の仕組みを理解が乏しい
到達目標 D	ラインアレイスピーカーの仕組みを理解し安全に考慮した仕込みができる		ラインアレイスピーカーの仕組みを理解している		ラインアレイスピーカーの仕組みを理解が乏しい
到達目標 E	スピーカーチューニングや音場補正等環境に応じたシステム構築ができる		スピーカーチューニングや音場補正ができる		スピーカーチューニングや音場補正の理解が乏しい

**【教科書】**

随時、資料等配布

**【参考資料】**

**【成績の評価方法・評価基準】**

- \*積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。
- \*授業内容の理解度を確認するために実施する。
- \*グレードテストを行います。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		コンサートプロダクト4			年度	2025	
英語表記		Concert Product 4			学期	後期	
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価	
1	ライブ実習に向けて	実戦練習	1	プロダクションミーティング	プロダクションミーティングを基にプランの修正を行う	2	
			2	役割分担	ライブの流れに沿って担当割をする		
			3	単音練習	MTRを使用し単音練習をする		
2	ライブ実習に向けて	実戦練習	1	プロダクションミーティング	プロダクションミーティングを基にプランの修正を行う	2	
			2	役割分担	ライブの流れに沿って担当割をする		
			3	単音練習	MTRを使用し単音練習をする		
3	紅華祭 実習ライブ	紅華祭 実習ライブ 事前準備・開催	1	紅華祭実習ライブの実施計画に沿って本番開催	紅華祭実習ライブの進捗管理の重要性を理解し実践できる 時間を意識し各セクションが協力しセッティング、チェックをし、本番ではFOH、モニターオペレーターを実践する	2	
4							
5							
6	反省会	実習ライブを振り返り修正、変更で今後の実習ライブ実施向上を目指す	1	事前準備	事前準備の重要性が確認できる	2	
			2	開催日	トラブルやイレギュラーな事象を適切に対応できる		
			1	申し送り	実施結果を分析し改善案を提示できる		
7	メンテナンス実習	機材メンテナンス	1	機材メンテナンス	ケーブル・マイク・機材の員数チェックと確認	2	
			2	ケーブルメンテナンス	はんだ付け実習を行う		
			3	機材チェック	スピーカー・コンソール等の機材チェックをする		
8	メンテナンス実習	機材メンテナンス	1	機材メンテナンス	ケーブル・マイク・機材の員数チェックと確認	2	
			2	ケーブルメンテナンス	はんだ付け実習を行う		
			3	機材チェック	スピーカー・コンソール等の機材チェックをする		
9	ライブ実習に向けて	実践練習	1	プロダクションミーティング	プロダクションミーティングを基にプランの修正を行う	2	
			2	役割分担	ライブの流れに沿って担当割をする		
			3	単音練習	MTRを使用し単音練習をする		
10	PAシステム	セッティング実習	1	MICアレンジ	マイクのセッティングによって音の違いを理解する	2	
			2	MICセッティング	プランを基にマイクセッティングをする		
			3	ホール	プランを基にホールでのセッティングをする		
11	PAシステム	転換実習	1	MICセッティング	プランを基にマイクセッティングをする	2	
			2	役割分担	楽器ごとの担当割をする		
			3	舞台転換	ステージ上のバンド転換をする		
12	ライブ実習に向けて	実践練習	1	ミキシング実習	MTRを使用しミキシング練習をする	2	
			2	ミキシング実習	MTRを使用しモニターバランスをとる		
			3	セッティング	ホールでセッティングからインプットチェックまで行う		
13	卒業公演	卒業公演 事前準備・開催	1	卒業公演の実施計画に沿って本番開催	卒業公演ライブの進捗管理の重要性を理解し実践できる 時間を意識し各セクションが協力しセッティング、チェックをし、本番ではFOH、モニターオペレーターを実践する	2	
14							
15							

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等